

東京バッハ合唱団 月報

[第 613 号] 2013 年 7 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 <http://bachchor-tokyo.jp/>
Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3-47604
Mail: office@bachchor-tokyo.jp (変更) bachchortokyo@aol.com (2013 年 2 月閉鎖)

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No. 613

July 2013

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

《ヨハネ受難曲》演奏と鑑賞の手引き [3]

冒頭と最終の大合唱 (一合唱で表される音楽 [下])、10 曲の独唱曲

大村 恵美子

■冒頭と最終の大合唱曲、その改編・改稿

1724 年 4 月 7 日、トーマス・カントルに就任した 39 歳のバッハは、初めての受難週金曜日に、さっそく新しく《ヨハネ受難曲》を創作、上演した。その後くり返し演奏するごとに、曲を入れ替え、楽器編成を変えるなど、現実に即して手を加えたが、結局最終的には初演の原型に忠実に戻したという経緯からも想像できるように、バッハはこの作品に、生涯並々ならぬ配慮と愛着を持ちつづけ、演奏しつづけたのである。

第 22 曲のコラール〈捕らわれしなれは〉(「神の子よ、あなたが捕らわれたことによって、われらに自由がもたらされた。あなたの牢獄は恵みの座であって、信ずる者らすべての解放の場です。あなたが奴隷の身に投じられなかったなら、われらの奴隷状態は永遠に続いたことでしょう」)を中核とする、前後の群衆小合唱のシンメトリックな配置(18b-22-25b)を、全曲の中心に据えて、きわめて論理的に整然と構成され、ヨハネ福音書の群衆の声を主体にした、緊迫した劇的な内容は、この受難曲の大きな特徴となっている。

ここでは、第 4 稿まで残されたバッハ自身の改変・改訂の努力を、詳細にわたって紹介する余裕はないので、冒頭と最終の大合唱曲だけに限って、どのようないきさつがあったのか、簡単に記しておくことにする。

○冒頭の大合唱、第 1 曲：合唱〈わが主いと高き君よ〉Herr, unser Herrscher

ト短調、4 分の 4 拍子、ダカーポ形式。

どの作品にあっても、冒頭曲はその音楽の貌であり、一曲全体を象徴する重大な任務を帯びている。風雲急を告げる弦の不安な無窮動の波のなかで、木管が悲痛なうめきをあげる前奏。曲全体の最終小節に、初めて大終止の和音に流れ込む、終始同型の 16 分音符リズム動機のオーケストラ、その不穏な動きに乗りながら、第 19 小節から合唱トゥッティが〈わが主〉(Herr, Herr, Herr)と端正な叫び声をあげる。——どんなに低く卑しめられた状態におかれても、最高に尊いわが主を仰ぐ——このわれわれの至誠を、暗闇に吹き飛ば

されまいと気迫を込めて。楽器と合唱の絶え間ないこの拮抗こそが、第 1 曲の身上である。

改稿の経緯は以下のとおり：

- ・第 2 稿 (1725 年)：第 1 稿の冒頭合唱〈わが主いと高き君よ〉が、《マタイ受難曲》の第 29 曲として後年用いられることになった〈人よなが罪に泣け〉O Mensch, beweine deine Sünde groß に差し替えられる。
- ・第 3 稿 (1728 年あるいは 32 年)：第 1 稿の Herr, unser Herrscher に戻る。
- ・第 4 稿 (1749 年)：第 1 稿と同じ。この稿では全般に現実の上演に合致するような種々の指示、配慮がなされている。

○終結コラール、第 40 曲：〈ああ主よ 時いたらば〉

Ach, Herr, laß dein lieb Engelein

- ・第 2 稿：第 39 曲に続くコラール〈ああ主よ 時いたらば〉が、〈小羊キリスト 世の罪負う者〉Christe, du Lamm Gottes (カンタータ BWV23 の最終コラール合唱曲)に差し替えられる。
- ・第 3 稿：第 1 稿の Ach, Herr... に戻る。
- ・第 4 稿：Ach, Herr... に戻ったまま。

いずれにせよ、バッハは再演のたびに、それぞれの時機に即した手直しの労をいとわなかったが、結果的には第 1 稿の原型に立ち戻ることになるのだった。

○最終の大合唱、第 39 曲：合唱〈憩え 聖なるかばね〉Ruht wohl, ihr heiligen Gebeine

この大合唱曲は、一貫して第 1 稿の原型にとどまり、次につづく第 40 曲のコラールに変更が及んだだけである。しかしそれもまた、上述のとおり、初稿復帰におちついたのだが、《マタイ受難曲》の終曲(第 68 曲)〈なげきつつ 墓のもと〉Wir setzen uns に似て、くり返しくり返し単純なモチーフが波のごとく寄せては返して、子守歌風の鎮魂曲として、親しみ溢れる音楽である。それが舞曲風のリズムやロンド形式であることで、これをもって全曲を閉じるには、世俗的な感じがよいためられたので、さらに重みを持たせるように、コラールをつけ加えたとの推測もある。

表 4:《ヨハネ受難曲》中の 10 曲の独唱歌

	楽曲	声部	歌い出し	歌い出し(訳詞)	オブリガート楽器
①	Nr. 7	A	Von den Stricken	罪の縄目より われを解き放たんと	オーボエ 2
②	Nr. 9	S	Ich folge dir	従わん主に 喜びいさみ	フルート 2
③	Nr. 13	T	Ach, mein Sinn	ああわが心よ いずこにゆき	弦合奏
④	Nr. 19	B	Betrachte, mein Seel (Arioso)	見よ わがたま 苦き喜び	ヴァイオリン・ダモレ/リュート
⑤	Nr. 20	T	Erwäge, wie sein blutgefärbter Rücken	いかに血に染む 主の背は	ヴァイオリン・ダモレ
⑥	Nr. 24	B	Eilt (+上 3 声の群衆合唱)	急げ 悩める心よ	弦合奏
⑦	Nr. 30	A	Es ist vorbracht	こと終わりぬ	ヴァイオリン・ダ・カンパ
⑧	Nr. 32	B	Mein treuer Heiland	尊き主 問わしめよ	弦合奏 / 通奏低音
⑨	Nr. 34	T	Mein Herz (Arioso + 4 声コラール)	ああわが心よ いまや地の上あまねく	フルート 2 / オーボエ・ダ・カッチャ
⑩	Nr. 35	S	Zerfließe, mein Herze	溶けよ心 涙のうちに	フルート / オーボエ・ダ・カッチャ

しかし、この作品を愛してやまない私たちは、ハ短調 4 分の 3 拍子の〈いこえ いこえ〉の反復の大合唱のあと、あかるい変ホ長調で、はるかの天空に呼びかけるコラールが立ち昇ってくると、それがまったく自然で、これ以外にはあり得なかったのだという喜びに包まれてしまう。理由として特に教会的な配慮など、わざわざ考えることもない。

いきなりの不安げな前奏に始まる冒頭合唱。その中で、神の子の存在と意味を見失うまいと、ひたむきに「主よ、主よ」と呼びかわす歌声。まさに悲劇の襲いかかる直前の緊迫に始まり(第 1 曲)、そして終結としては、〈いこえ いこえ〉といたわり歌う慰めにみちた合唱(第 39 曲)につづいて、ふつつつと沸き起こるように、天国の思いを、遥かなかなたを仰ぎ見つつ、唱和するコラール。

イエスの十字架の死が、永遠の生命に連なる道程にあることを、この 2 曲の連携がみごとに指し示している。〈ああ 主よ〉という呼びかけに始まり、〈聞きたまえ とわに わが頌め讃うるを〉と、大空に投げかける至悦は、バッハの生涯の各瞬間に、絶えず鳴り響いていたのであろう。

■ 10 曲の独唱歌

《ヨハネ受難曲》中には、独唱のアリアあるいはアリオージョが、合わせて 10 曲あるが、「表 2:《ヨハネ受難曲》の場面分け」(月報 611 号)を眺めていただくと分かるように、それらは、中心の 3 つの場面(カヤパの審問、イエスとピラト、十字架上のイエス)にバランスよく、3 曲、3 曲、4 曲と割り振られている。それぞれに、情景が切迫し、登場人物も、それを見つめるわれわれも感極まったところに、じつに効果的に配置されている。

独唱歌, 各声部ごとの曲数			
Sop. (2 曲)	Alt (2 曲)	Ten. (3 曲)	Baß (3 曲)
Nr. 9	Nr. 7	Nr. 13	Nr. 19
Nr. 35	Nr. 30	Nr. 20	Nr. 24
		Nr. 34	Nr. 32

① 第 7 曲: アルト・アリア 〈罪の縄目より われを解き放たんと〉 Von den Stricken meiner Sünden

オーボエ 2, 通奏低音。ニ短調, 4 分の 3 拍子, ゆるい 3 部形式。

カノン風に絡みつくような(罪の縄目)オーボエ 2 本の旋律に乗って, アルトが, 人間の罪を解放するために捕らえられる主の愛を歌う。通常ミサ[ミサ通常文]がまず〈キリエ〉をもって始められるように, 受難週の最初の独唱歌も, 罪の告白と, 主による救いの懇願である。

《マタイ》では, 大祭司の邸で人々がイエスの殺害を謀るという朗唱のあと, アルトが, 最初のアリア(第 6 曲)〈悔いは罪の心引き裂く〉を歌う。《ヨハネ》でも, イエスが捕らえられてアンナスのもとに連行されたという朗唱(第 6 曲)のあと, このアルト・アリア(第 7 曲)になる。通奏低音の執拗な音型反復で, 罪の抜け切れない状態を表している。

② 第 9 曲: ソプラノ・アリア 〈従わん主に 喜びいさみ〉 Ich folge dir gleichfalls mit freudigen Schritten

フルート 2 本の, 16 分音符の甲斐々々しい音型に始まる。変ロ長調, 8 分の 3 拍子。

ソプラノが明るく歌い出し, さらに通奏低音が, 8 分休符 1+8 分音符 2 という調子のよい音型をくり返ししながら, フルードとソプラノの旋律に従い進む。第 8 曲〈ペテロはイエスのあとをつけぬ〉というエヴァンゲリストの短い朗唱をうけたもので, このときのペテロといえは, おずおずと臆病に様子見の足どりであるのだが, それをソプラノが否定するように, 思いきり率直に, 主を見失うことなく, どこまでもついてゆきますから, どうぞ導き, 励まし, 支えてくださいと祈る。

③ 第 13 曲: テノール・アリア 〈ああわが心よ いずこに ゆき〉 Ach, mein Sinn, wo willst du endlich hin

弦楽合奏。嬰へ短調, 4 分の 3 拍子。

激烈に動揺するペテロの心をぶつけるような, ドラマティックなアリア。どこに逃がれようか(ここか)は

た 山崩れ わが身隠さんか〈救いは世になし〉………最後に短く〈しもべ 主を否みぬ〉、こう吐き出すように歌われる。

《マタイ》第38曲cの、ペテロ、鶏の三度の鳴き声に〈外に出で いたく泣けり〉— エヴァンゲリストの思い入れたっぷりの長い朗唱にあたるのが、《ヨハネ》ではこの第13曲テノール・アリアである。身の置きどころのないペトロの痛恨は、しかしユダのようにすべてを見切って自殺することなく、イエスへの愛に踏みとどまり、罪にまみれた自己をひきさげて、キリスト復活後の〈鍵〉として鍛えられ直すことになる。《ヨハネ》では、激しさ、鋭さを突きつける場面に多々出あうが、その頂点がこの第13曲といえよう。

つづく第14曲コラール〈誓いしペテロも 主を否みぬ〉で、〈なが [イエスの] まなざしに 目覚めさせたまへ〉と心を鎮め、深く祈って、第1部を終える。

《マタイ》では、第1部最終曲、第2部冒頭曲が、それぞれコラール幻想曲(ソプラノ・リピーエノ付き)とアルト・アリア(第2演奏群合唱付き)なのに比して、《ヨハネ》では、第1部終りも第2部始まりも単純な4声体コラールで、第15曲〈幸をほどこし〉は、〈正しき主イエス/夜半に捕われ……引きゆかれて/嘲けられたり〉と、裁判の顛末を、せっぱ詰まった調子で報告する。

④ 第19曲：バス・アリオージョ〈見よわがたま 苦き喜び〉 *Betrachte, mein Seel, mit ängstlichem Vergnügen*

ヴィオラ・ダモーレ(または弱音器付きヴァイオリン)2、リュート、通奏低音(ピアノシモで)。変ホ長調、4分の4拍子。

総督ピラトの裁判が始まり、かれと群衆との3回のやりとりがつづく。

第16曲b〈悪しき者ならずば 渡さじ〉

第16曲d〈死を与うる権利 われらには なし〉

第18曲b〈この人ならず ゆるせ バラバを〉

その結果、第18曲c〈ピラト、イエスを答打たせたり〉。

これを受けたこの第19曲アリオージョには、典雅な歌がしつらえられるのである。《マタイ》では、第2部冒頭が雅歌の世界〈ああ今や わがイエス去りぬ〉のアルト・アリアで始められる。そのように、イエスへの直接の加虐が決定的になった瞬間に、バッハは、どちらの受難曲でも、思いきり慰めにみちた歌を、心をふり絞ってささげている。

私たちの演奏は、古楽器主体ではないが、バッハが特に指定した、ここ第19曲のリュートと第30曲アルト・アリアのヴィオラ・ダ・ガンバとは、何としても省略しないで用意するように心がけている。

⑤ 第20曲：テノール・アリア〈いかに血に染む 主の背は〉 *Erwäge, wie sein blutgefärbter Rücken*

すぐそのあとに続く、答打ちを描写した激越なアリアは、もうさっそく残酷な場に据えられたイエスを、勇気をもって直視するようにはげます。

低い弦楽器を除いた、ヴィオラ・ダモーレ(または弱音器付きヴァイオリン)2声部のみのオブリガート。ハ短調、8分の12拍子。

ダ・カーポ形式の、長い(独唱曲中最長の7分)このアリアで、テノールが高い声域内の活発な旋律をくりひろげ、それに従う弦オブリガートも、音量は抑えながらも、8分・16分・32分音符のこまかい音型に終始し、テノールはいくつかの単語を、たびたび息長いフレーズにして、強く印象づける。

〈かたどりゆく〉 *Erwäge*

〈虹〉 *Regenbogen*

〈み恵みのしるしを 描く〉 *Gnadenzeichen steht* など。まさに若々しいバッハの情熱に圧倒される歌である。

⑥ 第24曲：バス・アリア(上3声の合唱付き)〈急げ 悩める心〉 *Eilt, ihr angefochtenen Seelen*

弦楽トウツティ。ト短調、8分の3拍子。ゆるい3部分形式。

ゴルゴタに向かつて十字架刑を執行しに向かう行列。それに追いつこうと走る、リアルな息遣いの光景である。あわただしく〈いずこ?〉とせつつく合唱が、現場の臨場感を盛りあげる。それも、リズム的に不規則な入りをくり返すことで、人々の慌てぶりが生き生きと描かれ、舞曲のジークを思わせる。

16分音符で低音から2オクターヴに達する上行パッセージ。声も楽器も一斉に、地上-十字架-(永遠の国)へと、心を逸らせて急ぐ。歌の最後は、

バス〈急げ〉

合唱〈いずこ?〉:フェルマータ(歎息)

バス〈ゴルゴタへ!〉

リトルネルロの後奏がくり返されて、終わる。

⑦ 第30曲：アルト・アリア〈こと終わりぬ〉

Es ist vorbracht

ヴィオラ・ダ・ガンバ独奏、弦楽トウツティ。ロ短調、4分の4拍子。

イエスの臨終にささげる歌。第20曲テノール・アリアに次いで長い(6分)。

・モルト・アダージョ〈こと終わりぬ〉

・ヴィヴァーチェ(4分の3拍子)〈ユダの丈夫(ますらお)は み力もて勝ちぬ〉。ここだけ力強い弦合奏の強弱交替が加わる。

・アダージョ〈終わりぬ〉(冒頭の静寂にもどって、5小節で終わる)の3部分が続き、哀惜、賞讃、悲しみを織りまぜる。

〈スペースの都合で、⑧-⑩の独唱曲は次号に掲載します〉

第108回定期演奏会(2013/3/30、紀尾井ホール)

《マタイ受難曲》を聴いて

感動の3時間半

◆是則 和子 様

その日は全く感動の3時間半。素晴らしい指揮、ソリスト、合唱、オーケストラ、演奏会場、曲目と演奏日等々、羅列しきれないほど、すべてが揃ったコンサートに魅せられてしまい、大満足して帰宅しました。

このたびの演奏会は、私にとってはただの演奏会ではなく、キリストの受難劇オペラを見たかのような感じで、演奏を聴いている間中、祈りの中にいたような気分で、あっという間の3時間余でした。

月報での大村様のお言葉を読み、マタイ受難曲にまつわる、積み重ねられた合唱団の歴史を知り、指揮者、主催者としての感動はいかばかりかと、その感激が伝わってきたのが、大きな喜びとなりました。素晴らしい演奏会の後はその余韻に酔いしれているのはめずらしくないことですが、岡村さんが出演されている分、増幅された感動の余韻に酔うことが出来ることを感謝しております。

30日、開場時間より15分も遅れて着き、もう1階席は満席でした。会場に入った瞬間から、いつもとは違う生气、熱気が満ち溢れていました。満席とわかっていても何故か、特上の席が1つ空いているような気がして、中央を前に進むと、直感が当り、F-13のシートがたった一つ空いていました。きっと両端からお連れ同士で座られた結果だったのでしょうか。素晴らしい演奏会、本当にありがとうございました。

.....
団員・岡村隆氏(B)のお誘いしたお客様が、岡村氏宛てに感想をお寄せくださったものです。

感動の演奏をCDに留めました。 CD《マタイ受難曲》日本語演奏 発売!!

第108回定期演奏会(デジタル・ライブ録音)
—バツハ4大合唱作品[日本語]連続演奏[3]—
(2013年3月30日、紀尾井ホール)

- CD3枚組+当日配布のプログラム(歌詞・演奏者紹介)
- 頒価 3000円(送料無料)

●ご注文: 東京バツハ合唱団事務局

(「月報」タイトル囲み参照)

●他に、同連続演奏シリーズ《口短調ミサ曲》、《クリスマス・オラトリオ》I-IIIの日本語演奏CD在庫あり。



バツハ・カンタータと教会暦の聖句一覧 ⑤

<p>BWV 43 《主 昇りたもう 喜ぶ声とともに》(1726) Gott fährt auf mit Jauchzen 【教会暦】昇天節[復活節後 40 日目](他に=BWV 11, 37, 128) [書簡]使徒 1:1-11。BWV11に同じ。 [福音書]マルコ 16:14-20。(同上)</p>
<p>BWV 44 《人々 なれらを追い出だすべし》(1724) Sie werden euch in den Bann tun 【教会暦】復活節後第 6 日曜日(=BWV 183) [書簡]第 1 ペテロ 4:8-11。心を込めて愛し合いなさい。愛は多くの罪を覆う。 [福音書]ヨハネ 15:26、16:4。父のもとから出る真理の霊が来るとき、その方がわたしについて証しをなさるはずである。</p>
<p>*BWV 45 《主は告げぬ 善き行いの何なるかを》(1726) Es ist dir gesagt, Mensch, was gut ist 【教会暦】三位一体節後第 8 日曜日(=BWV 136, 178) [書簡]ローマ 8:12-17。神の子とする霊をうけた、神の相続人、しかもキリストと共同の相続人です。 [福音書]マタイ 7:15-23。その実で彼らを見分ける。わたしに向かって「主よ、主よ」と言う者が皆、天の国に入るわけではない。</p>
<p>BWV 46 《見よや かかる痛みの世にあるべき》(1723) Schaut doch und sehet, ob irgendein Schmerz sei 【教会暦】三位一体節後第 10 日曜日(=BWV 101, 102) [書簡]第 1 コリント 12:1-11。同じ唯一の霊は、望むままに、一人一人に賜物を分けあたえる。 [福音書]ルカ 19:41-48。エルサレム崩壊の預言と、神殿からの商人の追放。</p>
<p>*BWV 47 《おのれを高むる者は 低くせられ》(1726) Wer sich selbst erhöht, der soll erniedriget werden 【教会暦】三位一体節後第 17 日曜日(=BWV 114, 148) [書簡]エフェソ 4:1-6。主は一人、信仰は一つ、洗礼は一つ、すべてのものの父である神は唯一。 [福音書]ルカ 14:1-11。水腫を患う者を癒す。慎ましきの勧め。</p>
<p>BWV 48 《悩むわれを 救わん者は誰ぞ》(1723) Ich elender Mensch, wer wird mich erlösen 【教会暦】三位一体節後第 19 日曜日(=BWV 5, 56) [書簡]エフェソ 4:22-28。BWV 5 に同じ。 [福音書]マタイ 9:1-8。(同上)</p>
<p>BWV 49 《われ行きて なれを求む》(1726) Ich geh und suche mit Verlangen 【教会暦】三位一体節後第 20 日曜日(=BWV 162, 180) [書簡]エフェソ 5:15-21。キリストに対する畏れをもって、互いに仕え愛なさい。 [福音書]マタイ 22:1-14。招かれる人は多いが、選ばれる人は少ない。</p>
<p>BWV 50 《主の救いと 強きと 統治と》(1723) Nun ist das Heil und die Kraft 【教会暦】ミカエルの祝日(9/29 固定)(=BWV 19, 130, 149) [書簡]黙示 12:7-12。BWV 19 に同じ。 [福音書]マタイ 18:1-11。(同上)</p>
<p>BWV 51 《全地よ 歡呼せよ み神に》(1730) Jauchzet Gott in allen Landen! 【教会暦】三位一体節後第 15 日曜日(=BWV 99, 138) [書簡]ガラテヤ 5:25-6:10。霊の導きに従って前進しよう。いま、時のある間に、すべての人々に対して善を行おう。 [福音書]マタイ 6:24-34。何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。その日の苦労は、その日だけで十分である。</p>
<p>*BWV 52 《悪しきこの世よ なれを頼まじ》(1726) Falsche Welt, dir traue ich nicht 【教会暦】三位一体節後第 23 日曜日(=BWV 139, 163) [書簡]フィリピ 3:17-21。わたしたちの本国は天にある。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを待っている。 [福音書]マタイ 22:15-22。皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。</p>
<p>[BWV 53 は偽作]</p>
<p>*印のカンタータは、web 上に訳詞があります。http://bachchor-tokyo.jp/(当団ホームページ)内の、出版局:歌詞[上演用]公開 をお開きください。</p>